

# スジアラ・シロクラベラの漁獲サイズ制限に関する 評価と必要性について (令和4年7月沖縄県水産海洋技術センター)

## ○沖縄県の沿岸で獲れる魚の量が減っています！

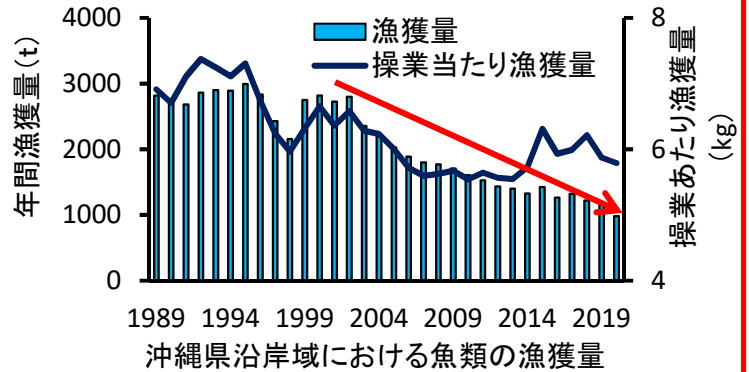
県内沿岸域における魚の漁獲量は、2000年頃から減少傾向が続いています

### 1990～1999年

年間平均漁獲量 : 2,719 t  
漁1回あたりの平均漁獲量 : 6.8 kg

### 2010～2019年

年間平均漁獲量 : 1,367 t (50%減)  
漁1回あたりの平均漁獲量 : 5.8 kg (15%減)



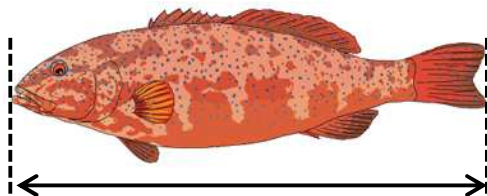
### ○どうして漁獲量が減少し続けているのか...

- 理由① 過剰な漁獲や環境の悪化による水産資源の減少
- 理由② 燃油代の高騰・うみんちゅの高齢化・資源の減少などによる漁業者数や出漁回数の減少

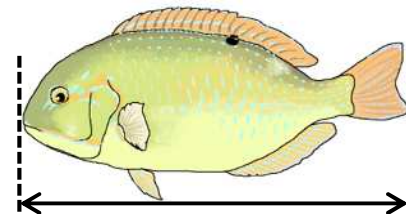
これからも沖縄の魚を利用するためには  
一人一人ができることに取り組む必要があります！

## ○資源の持続的な利用に向けた取り組みがはじまっています！

うみんちゅたちは、小さなアカジン(和名:スジアラ)やマクブ(和名:シロクラベラ)を獲らないようにする「漁獲サイズ制限」に取り組んでいます。



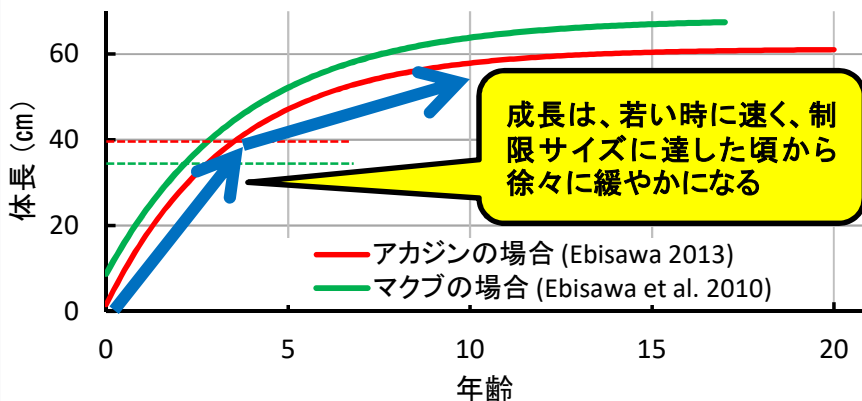
アカジン: 全長40 cm未満の漁獲を制限



マクブ: 全長35 cm未満の漁獲を制限

### ◎漁獲サイズ制限のメリット

- ① 卵を産めるようになるまで生き残る魚が増えるので、次世代の魚を確保できる
- ② 若い魚は成長が速い(短期間でたくさん成長する)ので、限られた資源を効率的に利用できる



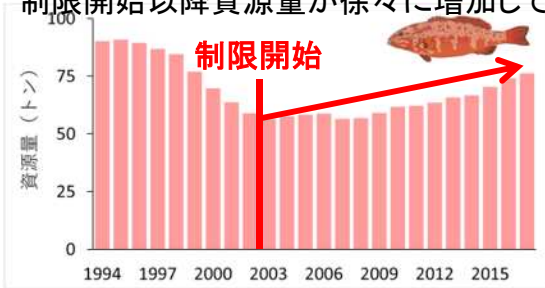
成長は、若い時に速く、制限サイズに達した頃から徐々に緩やかになる

成長が速い若魚を短期間で大きくしてから漁獲するので効率的！

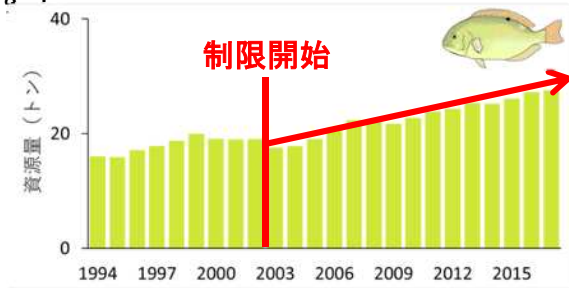
アカジン・マクブの年齢と成長

## ○ サイズ制限によって資源が増えてきている地域もあります！（例：本島北部海域）

2003年からアカジン・マクブの漁獲サイズ制限に取り組んでいる本島北部の海域では、制限開始以降資源量が徐々に増加しています！



本島北部海域におけるアカジンの資源量



本島北部海域におけるマクブの資源量

### 制限開始時(2003年)

アカジン資源量：約56 t  
マクブ資源量：約17 t

### 近年(2017年)

アカジン資源量：約76 t (約1.3倍に増加！)  
マクブ資源量：約27 t (約1.6倍に増加！)

資源の減少は止められない・・・とあきらめていませんか？  
適切な方法で漁獲すれば、資源を利用しながら増やすことができます！

## ○ 私たち一人一人にできること、始めてみませんか？

### ◎ 遊漁者(釣り人など)も水産資源を利用している一人です

平成22年度の県内沿岸域における漁業と遊漁による推定漁獲量(太田, 2017)

県内の遊漁者による推定漁獲量：805 t  
☞ 県内沿岸域の漁獲量の43.7%に相当

・アカジン：18 t (漁業による漁獲量の32.4%)※  
・マクブ：2 t (漁業による漁獲量の6.3%)※

※ 釣り雑誌や釣具店のHPなどの情報から算出した量です

種類	漁業者漁獲量(トン)	遊漁者漁獲量(トン)	漁業に対する遊漁の割合
アカジン	55	18	32.4%
マクブ	35	2	6.3%
沿岸魚全体	1,842	805	43.7%

☑ 令和2年に行われた調査では、遊漁船によるアカジンの釣獲量が**本島西側だけで14 tに達すると推定**されていて、**遊漁による漁獲が増加している可能性が示されています。**

### ◎ 遊漁者の方も魚の減少や資源管理の必要性を肌で感じています

Webで実施した水産資源に関するアンケートの回答結果

釣りをする頻度	回答者数	資源の減少について知っている	資源の減少を実感する	サイズ制限のことを知っている	遊漁者もサイズ制限をするべきと思う
年1回以上	345人	284人(82%)	291人(84%)	213人(61%)	321人(93%)
年1回以下	622人	291人(46%)	319人(51%)	84人(13%)	535人(86%)

☑ 令和3年に県民の方に対してアンケート調査をさせて頂いた結果、**釣りをする方が資源の減少や管理の必要性をより感じていることがわかりました。**

沖縄の海の魅力を未来に残していくため  
遊漁者の方もサイズ制限へのご協力宜しくお願いします！